

## 幼児を持つ保護者の靴の購入状況 —靴教育受講の有無による比較—

Shoe Purchasing Trends of Parents with Preschool Children:  
A Comparative Analysis of the Presence or Absence of Shoe Fitting Education

加城 貴美子                      塚本 博之  
Kimiko KASHIRO      Hiroyuki TSUKAMOTO  
宮崎 仁美                      釜中 明  
Hitomi MIYAZAKI      Akira KAMANAKA

(平成30年 9月27日受理)

幼児を持つ保護者の靴の購入状況についての研究報告はみられるが、多量のデータによる報告はみられない。そこで本研究は、幼児を持つ保護者が、正しいサイズの靴の選び方や履き方などの講習（以下、靴の教育）を受けている場合と受けていない場合で、幼児の靴の購入に関して、どのような違いがあるかを調査した結果を報告する。保護者の同意の得られた幼児、計5,792名の質問紙調査を検討した。

その結果、靴の教育あり・なしとも靴の購入場所は「靴量販店」が最も多く、靴の購入状況は「幼児の靴が小さいと思ったとき」、靴を購入するときは、「子どもに靴を履かせる」が最も多かった。「他人の靴を貰った」については、「子ども」・「母親の友人」が最も多く、スニーカー類であった。

また、「幼児の足のサイズに合った靴」を履いている、が最も多かった。足長は右足より左足の方が長かった。靴の教育のあり・なしとも、足のサイズより小さい靴を履いていた幼児がみられたので、今後足に合わない靴の見分け方などを指導していく必要があると考える。

Keyword：幼児 (preschool children)、靴教育 (shoe-fitting education)、保護者 (parents)

### 1. はじめに

幼児期は足の発育が顕著であるといわれている。その時期に履く靴は、足に合ったサイズの靴を選び、正しい靴の履き方をして、足の発育を促進させることが重要である。幼児の靴は1 cm間隔のものが多く、足幅や足高に合った靴を探すのは困難である。甲高や足幅の広い靴がないために、ワンサイズ大きい靴を履かせている保護者も多い。細谷ら<sup>1)</sup>は、幼児が自然に歩行できるポイントを、先行研究で明らかにしている。林ら<sup>2)</sup>は、靴の足長サイズと足囲サイズのどちらかの不適合が、歩行時のけり出し動作へ与える影響について、歩行計測によって定量的に検討している。内田ら<sup>3)</sup>は、外反母趾の足のサイズと、履いている靴サイズとの適合状況を比較検討している。さらに小林ら<sup>4)</sup>は、足と靴の適合性が歩

行に与える影響を歩行分析により明らかにしている。このように、靴と歩行動作についての研究報告は多くあるが、靴の購入状況や足のサイズと履いている靴のサイズについての適合性に関する報告はみられない。

本研究の目的は、靴についての教育を受けた保護者と教育を受けていない保護者は、幼児の靴の購入にあたり、その購入方法に違いがあるかを明らかにすることである。また、幼児が足のサイズに合った靴を履いているかを、靴の教育の有無によって比較検討し、幼児の靴購入に関する保護者への教育法や指導法を示唆することである。

## 2. 研究方法

- 1) 対象：保護者の同意の得られた3幼稚園と10保育園の幼児、計5,792名であった。
- 2) 内容：質問紙調査〔靴の購入場所、購入方法、購入時の状況、靴を貰って履いた有無、貰った人との関係、貰った靴の種類〕、足の長さ、現在履いている靴のサイズ、である。
- 3) 調査期間：2008年7月～2016年2月。
- 4) フィールド：N県・S県・E県の3幼稚園と10保育園。
- 5) 分析：統計は記述統計を行い、統計処理についてはSPSS Ver.22を使用した。
- 6) 倫理的配慮：新潟県立看護大学の倫理審査委員会の承認を得た。
- 7) 靴教育の内容：

靴の教育については、足の測定・調査の結果報告会を開催すると同時に、靴に関する講演（子どもの足の発育・発達について、子どもの足に合った靴の選定・購入方法、靴の正しい履き方、靴の手入れ、等）を年少児の保護者に実施した。靴の教育を実施したのは1幼稚園2,645名であった。

### 【足のサイズに合った靴サイズの判断】

足に合った靴を履いているかの判断は、左右の足長を測定し、長い方の値を足のサイズとした。靴は、捨て寸を考慮して、 $\pm 0.9\text{cm}$ を足のサイズに合っているととした。1.0cm以上靴のサイズが小さい場合は「靴のサイズが小さい」、1.0cm以上靴のサイズが大きい場合は、「靴のサイズが大きい」とした。

## 3. 結果

対象幼児は5,792名、保護者の質問紙の有効回答は5,364名（92.6%）であった。

### 1) 対象幼児の保護者

靴教育を受けた保護者（以後、教育あり）は2,645名（49.3%）、受けなかった保護者（以後、教育なし）は2,719名（50.7%）であった。

### 2) 靴の購入場所

靴の購入場所については、図1に示した。教育ありでは、靴の購入場所で最も多いのは「靴量販店」の75.0%、次いで、「靴専門店」の17.5%であった。教育なしでは、「靴量販店」が66.9%、次いで、「靴専門店」が25.4%であった。教育ありの方が、「靴量販店」での購入が多かった。教育なしは、「子ども服を売っている店」が2.9%

## 幼児を持つ保護者の靴の購入状況

であり、教育ありの0.6%よりも多く、次いで、「スポーツ店」の2.5%であった。教育ありの「スポーツ店」は2.3%で、両者はほぼ同じであった。「通信販売」は、教育ありが1.4%、教育なしは0.04%であった。

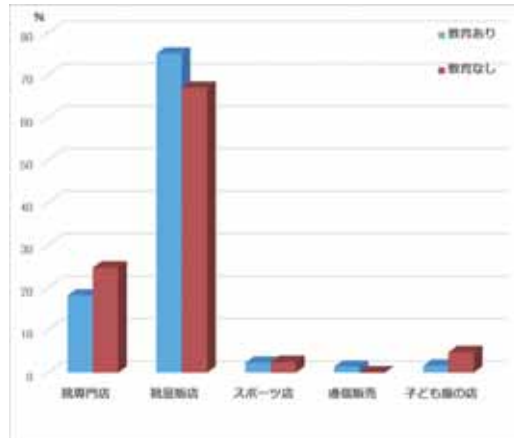


図1. 靴の購入場所（複数回答）

### 3) 靴を購入するときの状況

靴を購入するときの状況について、図2に示した。「保護者が子どもの靴をみて小さいと思ったとき」に靴を購入するのが最も多く、教育なしでは86.9%、教育ありでは78.1%であった。次いで「靴がボロボロになってしまったとき」が、教育ありでは45.7%、教育なしでは41.7%であった。「子どもが靴を欲しいと言ったとき」に購入するのは、教育ありでは6.7%、教育なしでは4.9%であった。

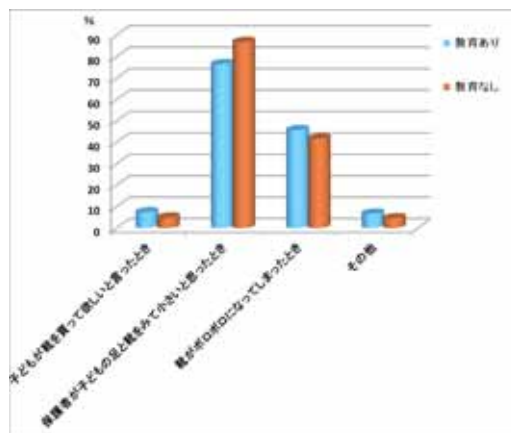


図2. 靴購入時の状況（複数回答）

4) 靴店での購入方法

靴店での靴の購入方法を図3に示した。靴店での靴の購入は、「子どもに靴を履かせて買う」が最も多く、教育あり82.8%、教育なし81.2%であった。次に「店員と相談しながら買う」は、教育ありが19.6%、教育なしでは17.1%であった。「お店のシューフィッターに相談しながら買う」は、教育ありでは1.5%、教育なしでは7.6%であった。「その他」では、「子どもが靴を履かないで祖父母がプレゼントとして買ってきた」が、教育なしで6.1%、教育ありでは4.2%であった。

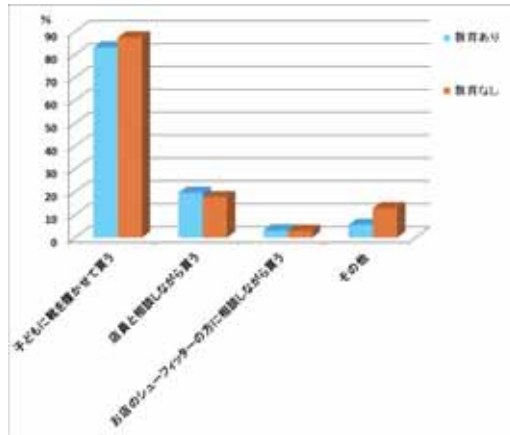


図3. 靴店での靴の購入状況 (複数回答)

5) 幼児が人の靴を履いた有無

幼児が人の靴を貰って履いたかを表1に示した。教育ありの幼児が、人の靴を履かないのは33.1%、履いたのは14.3%、教育なしの幼児が、人の靴を履かないのは27.1%、履いたのは22.2%であった。人から貰った靴を履いている幼児は、教育ありとなしの間に有意差 ( $p < 0.001$ ) がみられた。

表1 幼児が人の靴を貰って履いた有無

		N = 5364					
靴教育	n	履かない		履いた		記載なし	
		n	%	n	%	n	%
教育あり	2645	1777	33.1	767	14.3 *	100	1.9
教育なし	2719	1454	27.1	1223	22.8 *	42	0.8
計	5364	5364	60.2	1990	37.1	142	2.7

\*  $p < 0.001$

6) 靴を貰った人との関係

他者から靴を貰った人との関係を図4に示した。靴を貰った人との関係で、教育ありで最も多いのは、「子ども・母親の友人」からで18.6%、次に「兄弟姉妹」からで

## 幼児を持つ保護者の靴の購入状況

13.0%、「親戚」からは5.6%であった。教育なしで最も多いのは「親戚」からが19.9%、「兄弟姉妹」からが12.0%であった。「父母や祖父母」から貰った靴を履いているのは、教育あり・なしとも1%未満であった。靴をくれる人は「まだそんなに履いていないので」、「靴が小さくなったので良かったら履いてください」、といった理由が多かった。

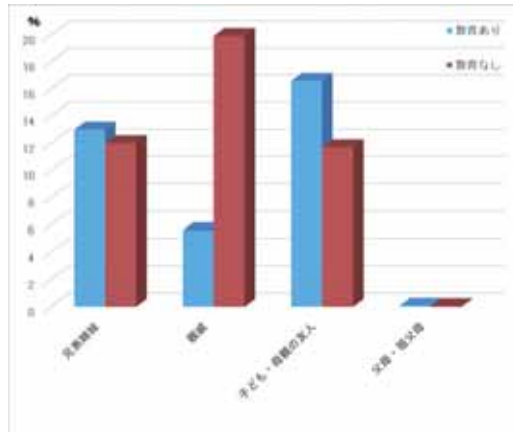


図4. 靴を貰った人との関係

### 7) 貰った靴の種類

貰った靴の種類について図5に示した。教育あり・なしともに、最も多いのはスニーカーであった。次に長靴類、サンダル類、スポーツシューズ類とファーストシューズであった。

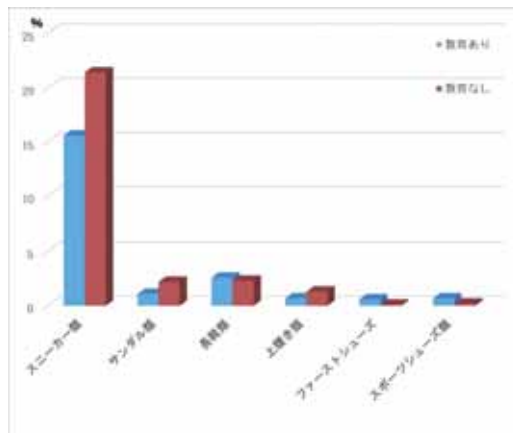


図5. 貰った靴の種類

## 8) 左右の足長の比較

靴の教育あり・なしで幼児の左右の足長の比較を表2に示した。教育あり・なしとも左足の方が長く、合計で59.2%であり、右足の方が長い20.5%の約3倍であった。両者の間には有意差がみられた ( $p < 0.05$ )。左右の足の長さが同じ幼児は、教育ありが5.1%、なしが5.2%で、ごく少数であった。

表2 幼児の左右足の長さの比較

靴教育	N-5792					
	左足が長い		左右足同長		右足が長い	
	n	%	n	%	n	%
教育あり	1639	28.3	294	5.1	846	14.6
教育なし	1790	30.9	301	5.2	922	15.9
合計	3429	59.2	595	10.3	1768	20.5

## 9) 足長と靴のサイズについて

幼児の足長と履いている靴のサイズについて表3に示した。教育あり・なしとも足のサイズと靴のサイズが合っている幼児が最も多く、全体の73.2%であった。教育ありでは、「靴のサイズが大きい」が6.4%、「靴のサイズが小さい」が5.0%であった。教育なしでは、「靴のサイズが小さい」が10.1%、「靴のサイズが大きい」が5.3%であった。足のサイズよりも小さい靴を履いている幼児は、教育ありとなしの間には有意差 ( $p < 0.05$ ) がみられた。

表3 幼児の足長と靴サイズとの関係

靴教育	N-5569					
	靴のサイズが小さい		靴のサイズが合っている		靴のサイズが大きい	
	n	%	n	%	n	%
教育あり	278	5 *	1998	35.9	359	6.4
教育なし	561	10.1 *	2078	37.3	295	5.3
合計	839	15.1	4076	73.2	654	11.7

\*  $p < 0.05$ 

## 4. 考察

調査対象については、データとして十分検討できるものであった。

## 1) 靴の購入場所について

靴の購入場所で最も多かったのは「靴量販店」、75%であった。「靴量販店」は日本全国に多く散在している、誰でも気軽に店に入ることができる、靴を選んでいる際に

はあまり店員と接触しないで自由に品定めができる、という特徴がある。「靴量販店」での購入が、教育を受けた保護者の方が多いのは、靴選択の方法や子どもの足の成長・発育についての知識が得られているからではないかと推測される。全国的に「靴量販店」での購入が多いが、地域によっては「靴量販店」が近くにない場合、「スポーツ店」や「子ども服売り場」で購入していることが分かった。「スポーツ店」や「子ども服売り場」での幼児の靴は、「靴量販店」と比較して品数が少ないので、選択肢が限られる。また、靴の購入目的ではなく、百貨店などに買い物に行ったときに靴売り場で購入したケースが意外に多かった。幼児の足の発育が顕著で年に何足も購入しなければならぬ状況では、靴の購入価格が最大の条件となってしまう、「靴専門店」より比較的割安な「靴量販店」に集中しているのではないかと推測される。

## 2) 靴を購入するときの状況について

保護者が幼児の靴を購入しようと決断する理由は、「保護者が幼児の靴が小さいと思ったとき」が最も多かった。「子どもの靴が小さい」と判断する基準は、中敷きの第1趾の跡で判断する方法と、靴を履いた状態で第1趾の上からみて、靴先までの距離で判断する方法がある。通常は靴先に第1趾がついていれば、「靴が小さい」と判断するように指導をしている。また、「保護者が子どもの靴をみてボロボロになると」は主観的な視点であるが、靴の履き方や靴の素材により耐久性は異なるので、靴の寿命を独自に判断してのことであろう。

## 3) 靴の購入方法について

靴を購入するに当たり、80%以上が「子どもに靴を履かせる」方法である。保護者と子どもと一緒に来店し、子どもに靴を履かせて足に合うかを確認して靴を選んで購入している。しかし、「子どもに靴を履かせる」ことはあるが、「靴を履いた状態で歩かせる」ことはあまり目にしない。靴を購入するに当たり、履いた状態で実際に歩かせることは、素材の堅さや足との接触などを確認するために必要な作業である。「店員との相談」は2割弱、「お店のシューフィッターに相談」は少数であった。日本では靴専門店であってもシューフィッターが常置されていないこともあり、仕方なく「店員との相談」という選択肢しか選べないことになる。したがって、子どもの靴の選定には、保護者の知識だけでの購入が実状である。「シューフィッターと相談している」は、保護者が正しい目的で正しいサイズの靴を選定しようとしている意識の表れである。シューフィッターのいる店は限られているため、幼児の保護者への靴の選定方法や靴の正しい履き方などを啓発していく必要があると考える。

## 4) 靴を貰った人との関係について

人の靴を貰って履かせたことのある保護者は、4割弱みられた。最も多いのは「兄弟姉妹」であり、身近なところで靴のお下がりが活用されていることが明らかとなった。次に「子どもの友人や母親の友人に貰って履く」が、1割強であった。靴教育なしの保護者の中には、すべてお下りの靴を履かせていた者もみられた。「父母・祖父母の靴を履く」子どもも少数おり、その種類はミュール、サンダルなどであった。



玄関にあるカラフルな履物が幼児の目を引き、さらに大人と同じ靴を履きたい、などの心理的要因が働いたのではないかと考えられる。他人の靴を履くことは、他人の足形の癖がついた靴に自分の足を合わせることになり、足の変形を余儀なくされる可能性が高く、他者の靴を履くことはあまり推奨されない。

#### 5) 幼児の足長と靴のサイズについて

幼児の左右の足の長さは約60%左足が長く、左右の足長が同じ幼児は約5%であった。足に合った靴のサイズを履いている幼児は、教育あり・なしとも最も多く、小さい靴を無理矢理履いている幼児は、教育なしの方が多かった。サイズの大きい靴を履いていた幼児は教育ありが多く、足甲や足幅の広い場合は1サイズ大きい靴を選ぶ指導の結果であると推測される。保護者には、幼児の足の発育にともない、靴が小さくなった状態を判断する視点と靴の購入時期を指導していく必要がある。

## 5. 結語

幼稚園と保育園の幼児の保護者、計5,792名にアンケート調査をおこなったところ、以下の知見が得られた。

- 1) 靴の購入場所は、靴量販店、靴専門店であった。
- 2) 靴を購入する状況は、保護者が靴を小さいと思ったとき、靴がボロボロになったときであった。
- 3) 保護者の靴の購入は、子どもに靴を履かせるが多く、店員と相談であった。
- 4) 靴をくれた他社との関係は、子ども・母親の友人、親戚、兄弟姉妹であった。
- 5) もらった靴は、スニーカーが多かった。
- 6) 足長は、左足の方が長かった。
- 7) 幼児の足のサイズに合った靴を履いているのが7割以上であった。

## 引用文献

- 1) 細谷聡、佐藤雅人、白石桂子、他、歩行計測による幼児靴評価に関する研究、靴の医学、19(2)、6-101、2005
- 2) 林亮誠、細谷聡、佐藤雅人、靴のサイズ不適合が蹴り出し動作に及ぼす影響、靴の医学、27(2)、78-83、2013
- 3) 内田俊彦、藤原和朗、高岡淳、他、外反母趾の足サイズと靴サイズに関する検討、靴の医学、18(2)、47-51、2004
- 4) 小林文子、東佳徳、金森輝光、他、靴の適合性が歩行に与える影響、靴の医学、24(2)、45-50、2010